

# 上士幌町第 1 期子どもの読書推進計画

平成 28 年 3 月 3 日策定

上士幌町教育委員会



# 上士幌町第1期子どもの読書推進計画原案 目次

## 第1章 計画策定の基本的な考え方

- 1 基本方針
- 2 計画策定の社会的背景
- 3 計画の位置付け
- 4 計画期間
- 5 計画の対象及び各発達段階の取り組みの特徴

## 第2章 子どもの読書の必要性及び現状と課題

- 1 子どもの読書の必要性
  - (1) 国立青少年教育振興機構の調査から見る子どもの読書活動の効果
  - (2) 本町における子どもの読書の必要性の共通認識
- 2 子どもの読書に関する本町の現状と課題
  - (1) アンケート調査概要
  - (2) 読書に対する子どもの意識の現状と課題
  - (3) 家庭・地域における読書活動の現状と課題
  - (4) 学校における読書環境整備の現状と課題

## 第3章 重点目標と基本施策

- 1 重点目標
- 2 基本施策
- 3 目標とする指標の設定

## 第4章 子どもの読書推進のための方策（目標達成のための具体的施策）

- 1 「いつも身近に本がある」環境づくりを進める取り組み
  - (1) 有機的につながる読書のネットワークづくり
  - (2) 認定こども園における図書の実方策
  - (3) 小学校、中学校における図書の充実方策
  - (4) 図書館を中心とした地域全体の環境整備
- 2 子ども自身が読書の大切さを実感できる取り組みの促進
  - (1) 全児童生徒で取り組む読書活動
  - (2) 地域で進める子どもの意識啓発
- 3 家庭での読書を広めていく取り組み
  - (1) 保護者の意識を高める取り組みの推進
  - (2) 地域における保護者の支援体制の充実

## 第5章 参考資料

## 第1章 計画策定の基本的な考え方

### 1 基本方針

“読書”は、「子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことができないもの」<sup>i</sup>です。国においても、読書の重要性を鑑みて、平成13年12月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」（以下、「子どもの読書推進法」という。）を制定し、社会全体でその推進を図っていくこととしました。それを受けて北海道も、平成15年11月に、「北海道子どもの読書推進計画」を策定し、その後、平成25年度から平成29年度までを「第三次北海道子どもの読書活動推進計画『生きる力をはぐくむ北の読書プラン』」（以下、「第三次北海道子どもの読書活動推進計画」という。）の期間として施策を推進しています。

本町ではこれまで、地域での読書推進の取り組みとして、平成27年度に開園した認定こども園ほろん（その前身としての保育所も含め）での読み聞かせ、平成27年に設立30周年を迎えた読み聞かせサークル「お話会カッコウ」の読み聞かせ活動、平成15年度から始まった乳幼児健診を活用したブックスタート事業などをはじめとして、子どもはもちろん、親子で本に触れ合う機会の充実に努めてきました。

これらの経緯を踏まえ、子どもが本に触れ合い、本を楽しみ、豊かな人生を歩むことができる力が身に付けられるよう、今後一層の環境整備を進めるために、「上士幌町第1期子どもの読書推進計画（仮称）」を策定します。

### 2 計画策定の社会的背景

今日、インターネット環境やその他機器の発達、家族形態や保護者の労働形態の変化など、子どもを取り巻く環境は、今までにない速度で変化しています。特に、情報メディアの発達や普及は、子どもたちの生活に大きな影響を与えています。また、テレビやテレビゲームに大量の時間を費やすことにより、外遊びや読書活動などの時間が減少し、子どもの成長発達に大きな影響を及ぼすことが懸念されています。

---

<sup>i</sup> 「子どもの読書活動の推進に関する法律」第2条より

### 3 計画の位置付け

国の「子どもの読書推進法」に基づく「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」及び「第三次北海道子どもの読書活動推進計画」を基本とし、上士幌町の子どもの読書活動推進に関する施策についての計画とします。

### 4 計画期間

平成28年度から平成32年度までの5年間とします。

ただし、他の計画や社会情勢の変化等により見直しが必要と判断した場合は見直しを行います。

### 5 計画の対象及び各発達段階の取り組みの特徴

計画は、おおむね18歳以下の子どもとします。なお、子どもの各発達段階における取り組みの特徴を、本計画では下記のとおりとします。

#### ◆乳幼児期～小学校低学年（0歳～8歳）「本と出会い、楽しさを知る」

乳幼児期から小学校低学年にかけては、特に読み聞かせを通して本と出会い、本との触れ合いを作っていく期間とします。本の楽しさを体感していき、その後の人生で本から様々なことを学んでいく素地を作ります。

#### ◆小学校中学年～小学校高学年（9歳～12歳）「本から学ぶ術を知る」

小学校低学年までに本の楽しさを体感し、本から様々なことを学んでいく素地を作ったら、その後は自らの成長に応じて本から様々なことを学んでいきます。特に小学校中学年～高学年は、身近に本がある環境の中で、「本から学ぶ」術を身に付けていく期間とします。

#### ◆中学生（13歳～15歳）「生活の中で本から様々なことを学ぶ」

中学生は、学校での学習や部活動により、学校で生活する時間が増えたり、家庭学習に要する時間も増えていく中で、読書をする時間を確保するのが難しい傾向にあります。よって、「読書」が特別なものではなく、生活の一部としながら、様々なことを学んでいける力を身に付ける期間とします。

#### ◆高校生（16歳～18歳）「図書館の活用を知る」

高校生からは、学校教育が終わってからも「生涯学習」の観点に立ち、本から様々なことを学んでいけるよう、図書館の機能を積極的に活用できる方法を習得する期間とします。

## 第2章 子どもの読書の必要性及び現状と課題

### 1 子どもの読書の必要性

#### (1) 国立青少年教育振興機構の調査から見る子どもの読書活動の効果

国立青少年教育振興機構は、平成25年2月に、子どもの読書活動の実態と、その影響や効果について調査を行い、その報告書を発表しました<sup>ii</sup>。この調査は、成人調査と青少年調査（中学生・高校生）の2つの調査が行われ、我が国全体の特徴として、主に下記のとおり報告されています。

##### 【成人調査の主な結果】

- ・子どもの頃に「本を読んだこと」や「絵本を読んだこと」などの読書活動が多い成人や、現在までに「好きな本」や「忘れられない本」があると回答した成人は、1か月に読む本の冊数や1日の読書時間が多い。
- ・「未来志向」、「社会性」、「自己肯定」、「意欲・関心」、「文化的作法・教養」、「市民性」のすべてにおいて、子どもの頃の読書活動が多い成人ほど、その意識・能力が高い。
- ・特に、就学前から小学校低学年までの「家族から昔話を聞いたこと」、「本や絵本の読み聞かせをしてもらったこと」、「絵本を読んだこと」などといった読書活動は、成人の「文化的作法・教養」との関係が強い。
- ・子どもの頃に読書活動が多い成人ほど、ボランティア活動に参加したことがある人の割合が多く、また、読み聞かせを行うなど、読書を通じた子どもとの関わりが多い。

このように、子どもの頃の読書は、大人になってからも、その意識や能力の違いに影響を及ぼし、さらには、ボランティア活動や子どもとの関わり方にも影響を及ぼすことが報告されています。

##### 【青少年調査の主な結果】

- ・多くの中学生・高校生は、図書館から本を借りていない。
- ・就学前から中学時代までに「本を読んだこと」や「絵本を読んだこと」などの読書活動が多い高校生・中学生や、現在までに「好きな本」や「忘れられない本」があると回答した高校生・中学生は、1か月に読む本の冊数や1日の読書時間が多い。
- ・就学前から中学時代までに読書活動が多い高校生・中学生ほど、「未来志向」、「社会性」、「自己肯定」、「意欲・関心」、「文化的作法・教養」、「市民性」、「論理的思考」のすべてにおいて、現在の意識・能力が高い。
- ・就学前から小学校低学年までの「家族から昔話を聞いたこと」、「本や絵本の読み聞かせをしてもらったこと」、「絵本を読んだこと」といった読書活動は、現在における「社会性」や「文化的作法・教養」との関係が強い。

このように、中学生、高校生は全国的に図書館の利用が進んでいないものの、読書は意識・能力に大きな影響を与え、かつ、就学前から小学

<sup>ii</sup> 国立青少年教育振興機構『子どもの読書活動の実態とその影響・効果に関する調査研究 報告書（概要）』平成25年 ※関係資料は第5章に掲載

校低学年までの読書は、その後の子どもの意識・行動に大きく影響することが報告されています。

## (2) 本町における子どもの読書の必要性の共通認識

前項の国立青少年教育振興機構の調査で示されたとおり、子どもの頃の読書は、子どもの精神的な発達に大きな影響を与え、大人になってからの意識・能力にも大きな影響を与えます。

本町ではこれまで、特に子どもへの読み聞かせ活動等に力を入れてきましたが、「読書は大切である」という漠然としたイメージで考えられてきました。本計画の策定を契機に、「未来志向」、「社会性」、「自己肯定」、「意欲・関心」、「文化的作法・教養」、「市民性」、「論理的思考」などの意識・能力に読書は大きな影響を与え、子どもの豊かな育ちに欠かせないものという共通認識に立って施策を推進することとし、具体的な施策をまとめます。

## 2 子どもの読書に関する本町の現状と課題

### (1) アンケート調査概要

前掲のように、子どもの読書は、発達や社会に出てからの活動に極めて大きな影響を与えるものです。そこで、現在、本町の子どもたちが読書に対してどのような意識を持っており、どのように読書をしているのかなどを調査するため、アンケート調査を実施しました。

(ア) 対象者：①認定こども園保護者、②学童保育所保護者、  
③図書館利用者（図書館は母数が少ないため参考調査）  
④全小学校全児童、⑤中学校生徒全学年全生徒

(イ) 調査期間：①及び② 平成28年1月20日～1月29日

③ 平成28年1月20日～1月31日

④及び⑤ 平成28年1月25日～1月29日

(ウ) 回収率：① 48.0%      ② 57.6%      ③ 母数なし

④ 98.0%      ⑤ 94.7%

(エ) 分析結果は第5章に掲載

### (2) 読書に対する子どもの意識・行動の現状と課題

#### (ア) 小学生の特徴

小学生は、多く児童が読書好きであると答えている一方、1週間の

読書日数は学年により大きな差があります。また、学校文庫の利用冊数、学校図書室の利用日数も学年により大きな差があります。また、図書館の利用の定着は進んでいません。

毎年小学6年生・中学3年生を対象に実施される全国学力・学習状況調査において、平成27年度は、普段の学校授業以外の1日あたりの読書時間の質問に対し、「10分より少ない」が26.3%で、北海道よりも高い傾向にあります。また「全くしない」も18.48%ですが、これは年度ごとにその傾向の増減に大きな差があります。(表1)

(数値単位：%)

		H23	H24	H25	H26	H27
10分より少ない	上士幌町	13.9	21.1	4.9	21.9	26.3
	北海道	16.1	15.9	15.5	15.4	15.5
全くしない	上士幌町	8.3	31.6	26.8	18.8	18.4
	北海道	30.8	24.9	25.6	23.0	23.3

表1 学力学習状況調査「1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」への回答

#### (イ) 中学生の特徴

読書好きの生徒と本を読む量の相関関係が明確になっています。読書好きが多い1年生は、読書をしない割合が少ないのに対し、読書好きの割合が下がる2年生は、読書をしない割合が上がります。

本を読まない理由は多様であり、課題を絞りこむのは困難ですが、多くの生徒は図書館や学校図書室の利用が定着していません。

#### (ウ) 現状と課題

上記のアンケート調査結果から、読書に対する「好き」「嫌い」の意識は、読書日数、冊数に影響を与えています。合わせて、読書好きの子どもは、学校図書室や図書館の利用をしていることも見えてきました。一方、学年が上がっていくにつれて、学校図書室や図書館の利用は少なくなっています。

### (3) 家庭・地域における読書活動の現状と課題

#### (ア) 幼児の家庭での読書状況

4分の3の家庭で1週間で1日以上読み聞かせを行っています。一方、読み聞かせを行っていない理由の多くは、時間的余裕がないことであると判明しました。一方で、テレビを見せていなかったり、ゲー



ムをさせたりしていない家庭はなく、さらに年齢が上がるにつれてその時間が多くなることがわかりました。併せて、読み聞かせの日数も減っています。

保護者は、半数弱が自ら読書をしていません。この理由は、仕事、家事、育児に忙しいことであり、ここでも時間的余裕のなさが読書を阻害する理由となっています。

#### (イ) 小学生の家庭での読書状況

低学年は、家庭での読書が定着していません。これは遊びの時間を優先している子どもが多数であり、時間的余裕や経済的な余裕はその阻害要因になっていません。また、家庭での本のそろえ方は購入が一番多く、これらを考えても、このアンケートからは経済的な問題で読書が進まない状況ではないことが読み取れます。

#### (ウ) 図書館の取り組み

地域における読書推進の中核的役割を持つ図書館では、保護者や子どもが多くの本に出会い本に親しみが持てるよう、ボランティア団体と協力して事業を推進してきましたが、下記のような課題があります。

- ・毎月1回実施している（イベント等が重なる月は開催していない）読み聞かせ会は、主に図書館を会場に「お話会カッコウ」が行っているが、直近5年間の参加者は、減少傾向にある。（表2）

	H22年度		H23年度		H24年度		H25年度		H26年度	
	子	大	子	大	子	大	子	大	子	大
4月	32	5	22	9	14	6	7	3	13	4
5月	20	7	19	4	10	5	10	5	5	2
6月	19	9	14	5	16	5	13	8	12	3
7月	15	5	15	4	32	14	0	0	12	5
8月	7	6	15	5	6	3	8	2	9	8
11月	0	0	9	3	10	2	6	3	7	5
1月	6	3	5	4	8	4	5	5	3	3
2月	16	5	5	3	7	4	5	5	4	4
3月	4	4	8	2	10	4	4	3	4	3
合計	119	44	112	39	113	47	58	34	69	37

表2 図書館での「お話会カッコウ」による読み聞かせの各月参加人数  
（紙芝居づくり・クリスマス会・生涯学習ラリーなどイベント除く）

- ・毎月1回、図書館職員が読み手となって行う「絵本のトビラ」は、参加者数が増えず広がりが見られない状況にある。(表3)

	H24 年度	H25 年度	H26 年度
4 月	7	3	5
5 月	0	0	8
6 月	11	12	5
7 月	12	3	8
8 月	未実施	未実施	未実施
9 月	1	11	4
10 月	8	3	7
11 月	2	0	8
12 月	7	6	5
1 月	1	0	3
2 月	1	6	0
3 月	5	0	未実施
合計	55	44	53

表3 「絵本のトビラ」各月の参加人数

- ・毎月1回、お話会カッコウが上士幌学校の休み時間に行う読み聞かせ活動は、参加児童数に大きな増減があり、児童への定着が課題である(表4)。

	H24 年度	H25 年度	H26 年度
4 月	未実施	未実施	未実施
5 月	8	18	20
6 月	15	9	35
7 月	11	28	14
8 月	未実施	未実施	未実施
9 月	11	20	24
10 月	7	20	5
11 月	16	10	8
12 月	7	10	6
1 月	未実施	未実施	未実施
2 月	7	25	4
3 月	14	未実施	18
合計	50	54	83

表4 上士幌小学校のお話会カッコウ読み聞かせの各月参加人数

- ・「お話会カッコウ」は、設立30周年を迎えた一方、新たな読み聞かせサークルが町内で立ち上がっていないなど、その取り組みが広がっていません。

#### (エ) 現状と課題

年齢の低い子どもがいる家庭ほど、家庭での読み聞かせを行っていますが、年齢が上がるほど、テレビやゲームの時間が優先されています。読書好きの子どもを増やし、テレビやゲームにはない読書の楽し

さを広めていくことが求められています。また、家庭での読み聞かせの大きな阻害要因は、保護者の忙しさにあります。

図書館を中心に推進している読書活動、学校での読み聞かせ活動は、参加者の広がり、児童への定着が課題となっています。

#### (4) 学校での読書環境整備の現状と課題

子どもたちが多くの時間を過ごす学校において、どのような読書環境の整備を行うかという問題は、非常に重要となります。文部科学省は、学校図書館図書標準を設け、学級数に応じた算定方法によって、学校図書館の標準的な蔵書数を定めています。

例えば、平成 23 年度は、上士幌町内全小学校の合計で、その達成率が 65.9%であったのに対し、平成 26 年度は 72.7%でした。一方で中学校では、平成 23 年度は 58.8%であったのに対し、平成 26 年度は 68.1%でした。(表 5) この算定方式は、児童生徒数に応じたものではなく、学級数に応じたものですので、例えば児童生徒数に大きな変動がなくても、学級数が増えると標準図書数は増加し、反対に学級数が減ると標準図書数も減少しますので、毎年達成率を 100%とするのは現実的ではありませんが、目安としてこの算定方法を採用し、蔵書の計画的な整備を図る必要があります。

	平成 23 年度		平成 26 年度	
	全小学校	中学校	全小学校	中学校
蔵書冊数	14,554 冊	4,654 冊	13,088 冊	5,391 冊
達成率	65.9%	58.8%	72.7%	68.1%

表 5 蔵書冊数と学校図書館図書標準の達成率

### 第3章 重点目標と基本施策

#### 1 重点目標

子どもたちが各発達段階を通じて本に触れ合い、本に楽しめるような姿勢を育むためには、乳幼児期から小学校低学年までに、その素地を養うことが重要です。この素地をもとに、発達段階に応じた「本」との出会いを通じて、心豊かに生きるために必要な様々なことを吸収し、豊かな人生を歩むことにつながります。

(1) 乳幼児期から小学校低学年までの子どもが、より本の楽しさを体感できるよう、本と触れ合うための環境整備を進める。

(2) 小学校中学年から中学生までの子どもが、自らの興味、関心に沿って本から様々なことを学ぶ図書整備を行う。

#### 2 基本施策

重点目標を達成するため、3つの基本目標を定めます。

##### (1) 「いつも身近に本がある」環境づくり

子どもたちが多くの時間を過ごす学校や、地域の読書推進の中核的な役割を果たす図書館をはじめとして、学校（認定こども園）、家庭、地域の全てが、子どもにとっていつも身近に本がある環境づくりを進めていくための施策を推進します。

##### (2) 子どもの意識啓発の促進

環境づくりと一体となって、子ども自身が読書の重要性を知り、読書が好きになる意識を啓発していくため、子どもが多くの時間を過ごす学校（認定こども園を含む）と、地域の中核施設としての図書館を中心に、施策を推進します。

##### (3) 乳幼児の保護者への意識啓発の促進

特に就学前の子どもが本に親しみ、本を好きになるためには、家庭での保護者の姿勢が重要です。核家族化、共働き世帯の増加している現在の実態を踏まえつつ、保護者への意識啓発を一層促進していきます。

### 3 目標とする指標の設定

基本施策を推進することで、下記の指標を達成することを目指します。なお、教育委員会において毎年アンケート調査を実施し、目標とする指標の達成度合いを確認します。

#### ◆小学生

読書が好き	1週間の読書日数		学級文庫利用 1週間一冊以上	学校図書室利用 1週間1回以上
	あまり読まない	毎日読む		
全学年 70%以上	全学年 25%以下	全学年 20%以上	全学年 70%以上	全学年 70%以上

#### ◆中学生

読書が好き	1か月の読書冊数 読まない	学校図書室利用 ほとんどいかない
全学年 70%以上	全学年 10%以下	全学年 50%以下

#### ◆家庭

認定こども園家庭1週間の読書日数		保護者の読書量 1か月1冊以上	図書館読み聞かせ活動
読んでいない	ほぼ毎日読む		
全クラス 25%未満	全クラス 40%以上	60%以上	平成27年度実績を維持

## 第4章 子どもの読書推進のための方策（目標達成のための具体的施策）

### 1 「いつも身近に本がある」環境づくりを進める取り組み

#### (1) 有機的につながる読書のネットワークづくり

図書館、学校、読書に関わる関係団体、読書に関する個人ボランティアなど、今まで本町は、それぞれの取り組みを深める中で、それぞれが「ゆるやかなつながり」をもって活動を進めてきました。その中では、情報の共有やニーズの共有などの機会が必ずしも十分ではなく、思うような取り組みを進められない現状があります。

今後は、この「ゆるやかなつながり」をより確かなものとし、情報の共有を密にし、さらにこの計画で定めた内容が進められているのかのチェック機能も果たしながら、全町を挙げて子どもの読書を推進する機運を高めていく取り組みを進めます。そのために、下記の2点に重点的に取り組みます。

#### ◆ 子どもの読書に関わる情報を共有する機会の創設

本町では今まで、各学校や図書館、関係団体、関係ボランティアなど、それぞれが子どもに本の素晴らしさを広めていくための活動を進めてきました。しかし一方で、それぞれのニーズや活動内容などを共有する機会が乏しく、一緒に課題解決に向けて取り組む機会は不足していました。これらを踏まえて、今後は教育委員会生涯学習課が事務局的な役割を果たしながら、各関係者、各関係機関、各事業の現状把握やニーズの共有、調整ができる機会を創設します。

#### ◆ 検証・評価の取り組み

上記と併せて、関係事業の効果や本計画の進捗状況などは、社会教育委員の会議や校長会、教頭会、読書に関する関係組織・団体と情報を共有し、連携を持ちながら、しっかりと検証・評価を行い、その結果を関係者の中で広く共有し、子どもの読書が推進される基盤を作ります。

#### (2) 認定こども園における図書の充実方策

認定こども園における絵本の充実は、「乳幼児期から小学校低学年までの子どもが、より本の楽しさを体感できるよう、本と触れ合うための環境を作る」という本計画の重点目標を達成するため、非常に重要となります。

特に絵本の充実については、「ふるさと納税子育て・少子化対策夢基金」を活用して、保育で利用する絵本の整備に努めました。また、子どもが自らの興味・関心に基づいて絵本を楽しむことができるよう、日々、絵本と親しむ取り組みを進めています。これらの取り組みの充実を図るために、下記を重点的に取り組みます。

#### ◆ 継続的な蔵書の充実

ふるさと納税子育て・少子化対策夢基金を活用した認定こども園の図書整備は平成26年度、平成27年度の2ヶ年で終了したことから、今後も、独自に認定こども園が恒常的に蔵書を増やしていく取り組みを進めます。

### (3) 小学校、中学校における図書の充実方策

本計画の重点目標を達成するためには、小学校低学年までの子どもが、いかに本を身近に感じ、本を楽しめる環境を作るか、ということが重要ですが、併せて、その養った素地を継続して伸ばしていく環境も重要です。平成21年に上土幌町教育委員会において策定した『かみしほろの健やかな育ち』においても、「あかるい学校」の中に、「読書大好き学びの基本」の項目が書かれています。

そこで、特に上土幌小学校においては、現在の図書室の効果的な活用と、図書館と連携した学級文庫の取り組みを踏まえ、これを拡充・充実させていくため、下記の3点を重点的に取り組みます。

#### ◆ 「(仮称) 読書コーディネーター (以下、「仮称」は略)」の配置

図書館、認定こども園、各学校の読書に関する環境を計画的に整備していくためには、それぞれがもっている役割とニーズを前提としつつ、総合的な調整を行う人材が不可欠です。そこで、「読書コーディネーター」を配置し、横断的で総合的な調整の役割を担える人材を確保します。

#### ◆ 上土幌小学校の図書環境のさらなる充実

上土幌小学校の図書環境のさらなる充実には、小学生の身近に本がある環境を作り、小学生の生活の中に図書を広めていくために必要不可欠です。

上土幌小学校の図書室を町内小学校の中核図書室として位置付けて充

実を図り、これを拠点として複式校の充実を図ります。併せて、子どもたちが多くの時間を過ごす教室等、上士幌小学校の全ての空間を対象としてその充実を図っていく取り組みも進めていきます。これらは、上士幌小学校内で十分にその検討を行い、計画的にその充実を図ります。

#### ◆ 図書重点整備

各小学校・中学校ともに、良書を選書し、より子どもの興味・関心に沿えるような蔵書を充実させるため、図書整備に関する経費を増額し、各学校が柔軟に図書を整備できるような環境づくりを行います。また平成 28 年度及び平成 29 年度を重点整備の 2 ヶ年として位置付け、重点的な予算の増額に務めます。

## 2 子ども自身が読書の大切さを実感できる取り組みの促進

### (1) 全児童生徒で取り組む読書活動

近年、インターネット環境やその他の機器の発達が目まぐるしく、第 1 章でも述べたように、多くの子どもたちは、大量の時間をテレビやゲームに費やす生活をしており、子どもの成長発達に大きな影響を及ぼすことが懸念されています。

これらの生活の中で、読書の重要性を子ども自身が認識するためには、読書の楽しみを実感・体感する必要があります。そのために、下記の 3 点に取り組めます。

#### ◆ 認定こども園「ほろん」での読書活動の推進

前述のように、認定こども園は、「ふるさと納税・子育て少子化対策夢基金」を活用して図書の整備を進めました。幼児期に図書に触れ合うことは、子ども自身が読書を楽しむ素地を養うために非常に重要であることから、今後も保育教育の中で読書活動を進めていきます。

#### ◆ 全校児童生徒で取り組む「朝読」の取り組み

原則として全校児童生徒が毎日「朝読」に取り組むこととします。朝読は、様々な家庭環境から登校している児童生徒が、朝の段階で心を静めて 1 日の活動を始めるための大事な時間となります。様々な実践報告の中で、落ち着いて授業に参加できるようになった等の利点も報告され



ていることを踏まえ、全町的な取り組みへと広げていきます。

#### ◆ 学童保育所で取り組む読書活動

学童保育所は、平成 29 年度から、図書館が併設されている生涯学習センターに移転する予定であることから、その利点を生かし、入所児童全員が読書に取り組む時間を作ります。特に、小学校の夏休み、冬休みなどの長期休暇では、子どもたちは多くの時間を過ごすことを踏まえ、図書館機能を最大限に活かした読書活動を進めます。

### (2) 地域で進める子どもの意識啓発

本町においては、これまで、図書館を中心に、毎月第 2 土曜日に実施している“お話会カッコウ”による「お話会」や図書館での読み聞かせ、「ジャンボ紙芝居づくり」、「にこよむチャレンジ」など、子どもが読書に親しむ事業を展開してきました。これらの取り組みを踏まえ、下記の 3 点の取り組みを進めます。

#### ◆ 効果的な事業周知

図書館を中心に実施している事業は、子どもが読書の楽しさを実感できる機会を提供し、あるいは親子で読書の楽しさを共有できる時間を提供するものです。これを町内に広めていくためには、多くの参加者を得ることが重要ですので、これまでの周知方法を検証し、効果的に事業の存在を広める取り組みを進めます。

#### ◆ 新生涯学習センターの機能を活かした事業展開

複合施設となる新生涯学習センターの機能を活かして、関係機関、関係団体と連携協力しながら、子どもが読書の楽しさを実感できる事業を推進します。

#### ◆ 北海道家庭教育サポート企業との連携した取り組みの推進

上士幌町では、地域全体で子どもを育む環境を整備するため、北海道家庭教育サポート企業<sup>iii</sup>の協定数を増やす取り組みを進めています。上

<sup>iii</sup> 北海道教育委員会が、家庭教育を支援するための職場環境づくりに取り組む企業等と協定を締結するもの。相互に協力して、北海道における家庭教育の一層の推進を図ることを目的としている。

士幌町で育つ子どもが読書の楽しさ、素晴らしさを実感するために、中心的な役割を持つ図書館だけでなく、これら企業とも連携協力しながら、町内の読書機運を高めていく取り組みを進めます。

### **3 家庭での読書を広めていく取り組み**

#### **(1) 保護者の意識を高める取り組みの推進**

本計画で重点目標として位置付けた乳幼児期から小学校低学年までの子どもが本の楽しさを体感できるためには、保護者の読書に対する意識が重要です。『かみしほろの健やかな育ち』では、「家族みんなで夕べの読書」を明記し、家庭で読書を楽しむことの大切さを位置付けています。この意識を町内に広めていくために、下記の2点に取り組みます。

##### **◆ 保護者の学ぶ機会の充実**

本町においては、ブックスタート事業などを通して、等しく保護者が絵本の素晴らしさに気づく機会があります。しかし一方で、その気づきを一過性のものとししない取り組みも重要です。保護者が家庭の教育に読書を取り入れていくことの重要性を継続して学べる機会を充実します。

##### **◆ 効果的な情報発信**

子どもの読書が、子どもの発達にどのように好影響を与えるのか、また子どもの読書を推進することで、この地域がどのような子どもに育てたいと願っているのかなど、保護者への情報を効果的に発信するため、図書館、認定こども園や子育て支援センターなどの組織・機関を活用した取り組みを進めます。

#### **(2) 地域における保護者の支援体制の充実**

前述のとおり、現在は核家族化、共働き世帯の増加など、保護者が多忙な中で生活を送っており、家庭の中において子どもと読書を楽しむ余裕がないのが実情です。

この実情を踏まえれば、地域が家庭の読書を支援していく必要があり、下記の3点について取り組みを進めます。

##### **◆ 地域全体で取り組む読書環境の整備**

商店、飲食店、入浴施設など、町民が日常的に足を運ぶ場所において、

親子で絵本を楽しめる環境整備に協力してもらうなど、地域全体で子どもの読書環境整備を進める取り組みを広げていきます。

#### ◆ 子どもの居場所となる図書館づくり

旧児童会館部分が改築となる生涯学習センターは、平成 29 年度より供用開始となる予定です。この新生涯学習センターは、町民にとって「ふらっと立ち寄りたくなる」ような施設となることを目的のひとつとして設計されています。また、コンパクトシティを目指す本町においては、学童保育所も同館に移転する予定であることも踏まえ、図書館が子どもや親子の居場所となり、立ち寄りたくなるような空間づくりを進めます。

#### ◆ 利用しやすい図書館の体制づくり

平成 27 年度より、月曜日を除く祝日を試行的に開館とし、また月末休館日も平日としています。これに加え、保護者の利便性に資するため、仕事帰りの時間や、認定こども園、学童保育所の送迎の際に利用しやすい環境を作るため、開館時間の延長を検討します。

## 第5章 関係資料

### (資料1) 経過報告

平成27年

- ・9月1日 上士幌町子どもの読書推進計画（仮称）策定会議設置要綱制定
- ・9月18日 第1回策定会議
- ・10月8日 第2回策定会議
- ・11月11日 第3回策定会議
- ・11月16日 第4回策定会議
- ・12月2日 第5回策定会議
- ・12月15日 第6回策定会議（紙面会議）（12月25日まで）
- ・12月25日 パブリックコメント（平成28年1月18日まで）

平成28年

- ・1月20日 認定こども園保護者アンケート（1月29日まで）  
学童保育所保護者アンケート（1月29日まで）  
図書館利用者アンケート（1月31日まで）
- ・1月25日 小学校児童アンケート（1月29日まで）  
中学校生徒アンケート（1月29日まで）
- ・1月27日 第7回策定会議
- ・1月29日 教育委員会へ策定会議より議論の報告書提出

## (資料2) 上士幌町子どもの読書推進計画(仮称)策定会議設置要綱

### (目的及び設置)

第1条 本町において育つ子どもが、言語を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていくため、読書の楽しさ、素晴らしさを普及することを目的に、「上士幌町子どもの読書推進計画(仮称)」(以下、「計画」という。)を策定することとし、その策定内容を検討するため、「上士幌町子どもの読書推進計画(仮称)策定会議」(以下、「会議」という。)を設置する。

### (任務)

第2条 会議は、前項の目的を達成するため、以下の検討を行う。

- (1) 子どもの読書環境の整備に関すること。
- (2) 家庭における子どもの読書普及に関すること。
- (3) その他、計画の策定に必要な事項に関すること。

### (会議)

第3条 会議は、以下の構成メンバーをもって開催する。

- (1) 社会教育委員の会議委員長
- (2) 上士幌小学校 司書教諭
- (3) お話会カッコウ メンバー
- (4) 認定こども園 研修部チーフ
- (5) 図書館職員
- (6) 学童保育所 指導員
- (7) 保護者
- (8) 子ども課学校教育担当
- (9) 生涯学習課社会教育担当
- (10) その他、必要に応じてオブザーバーを置くことができる。

### (議長)

第4条 会議には議長を置く。

- 2 議長は社会教育委員の会議委員長が務めるものとする。

### (報告)

第5条 会議で検討した内容は、教育委員会に報告するものとし、教育委員会

はその内容をもとに協議し計画を策定する。

(期間)

第6条 策定会議は、第1回会議の日にその効力が発生するものとし、「子どもの読書推進計画」(仮称)の策定をもってその効力を失うものとする。

(庶務)

第7条 会議の庶務は、教育委員会生涯学習課社会教育担当がこれを処理する。

(その他)

第8条 その他、会議に必要な事項は、教育長が別途これを定める。

附則

この要綱は、平成27年9月1日より施行する。

(資料3) 上士幌町子どもの読書計画 (仮称) 策定会議 構成メンバー

No.	団体	団体役職	氏名	備考
1	社会教育委員の会議	委員長	佐藤 美加代	要綱により議長
2	上士幌小学校	司書教諭	神藏 理	
3	認定こども園	研修部	新館 邦子	
4	お話会カッコウ	(代表)	(山下 京子)	要綱により団体が参加
5	上士幌町図書館	(主査)	(藤倉 徳夫)	要綱により図書館担当が参加
6	学童保育所	指導員	小川 美喜	
7	保護者		保里 明子	
8	保護者		吉田 恵	
9	子ども課学校教育担当	主査	有賀 孝行	
10	生涯学習課社会教育担当	社会教育主事	牧野 祐也	要綱により事務局

(資料4) アンケート結果 別紙のとおり

- ・認定こども園保護者アンケート分析結果
- ・学童保育所保護者アンケート分析結果
- ・小学生読書アンケート分析結果
- ・中学生読書アンケート分析結果
- ・図書館利用者アンケート集計結果

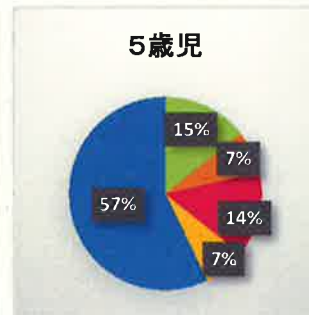
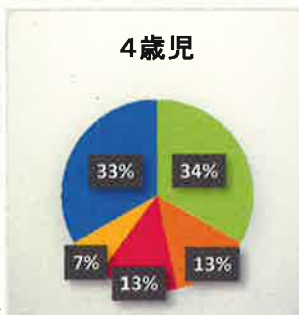
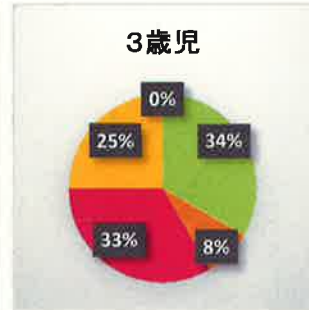
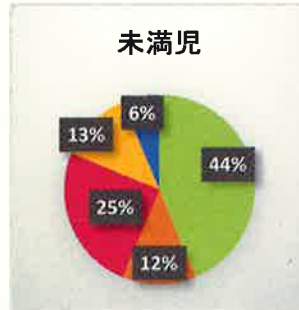
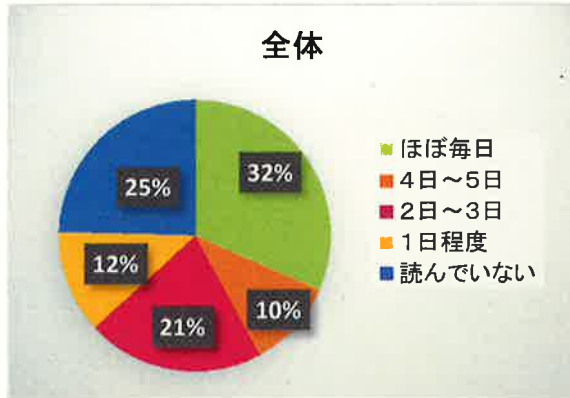


# 認定こども園保護者アンケート分析結果

## 質問1) 児童の年齢

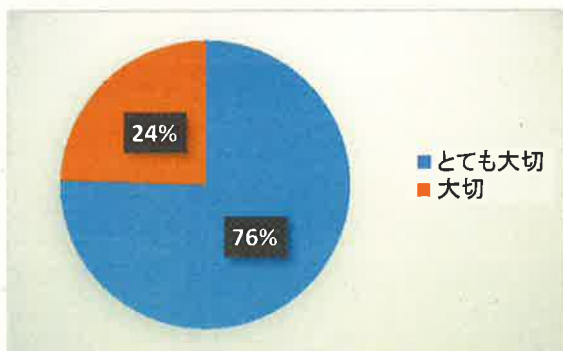
	未満児	3歳児	4歳児	5歳児	全体
ひとり	9	9	11	10	39
兄弟姉妹	7	3	4	4	18
合計	16	12	15	14	57

## 質問2) 1週間で絵本を読む日数



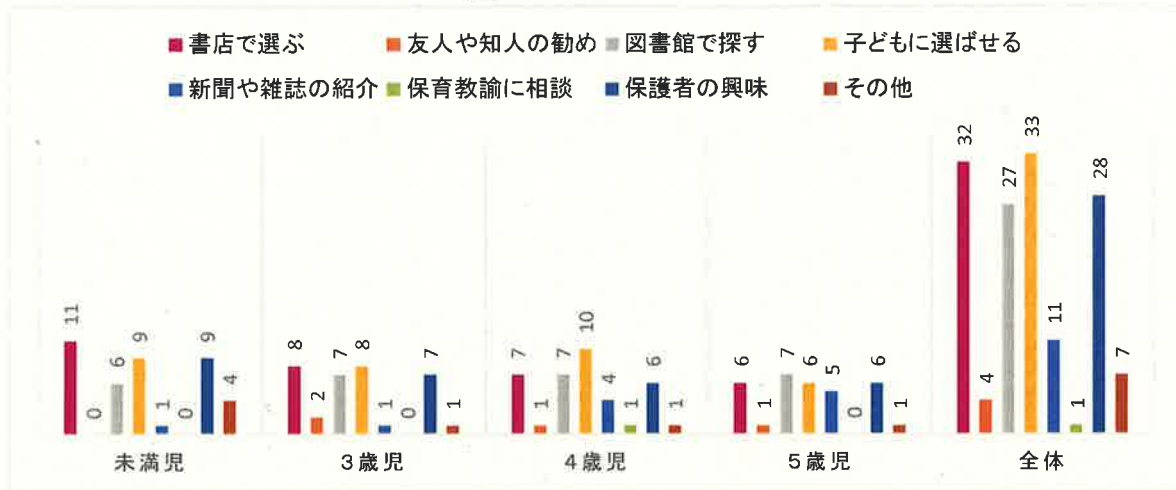
- 未満児は43.7%がほぼ毎日読んでいる
- 3歳児は全世帯で週に一日以上読んでいる。うち33.3%がほぼ毎日読んでいる。
- 4歳児は33.3%がほぼ毎日読んでいるが、同じく33.3%が読んでいない。
- 5歳児はほぼ毎日読んでいるのは14.2%であるのに対し、57.1%が読んでいない。
- 全体的に、4分の3の家庭では、1日以上絵本を読んでいる。

## 質問3) 絵本の読み聞かせなどについての認識(読んでいる者のみ)



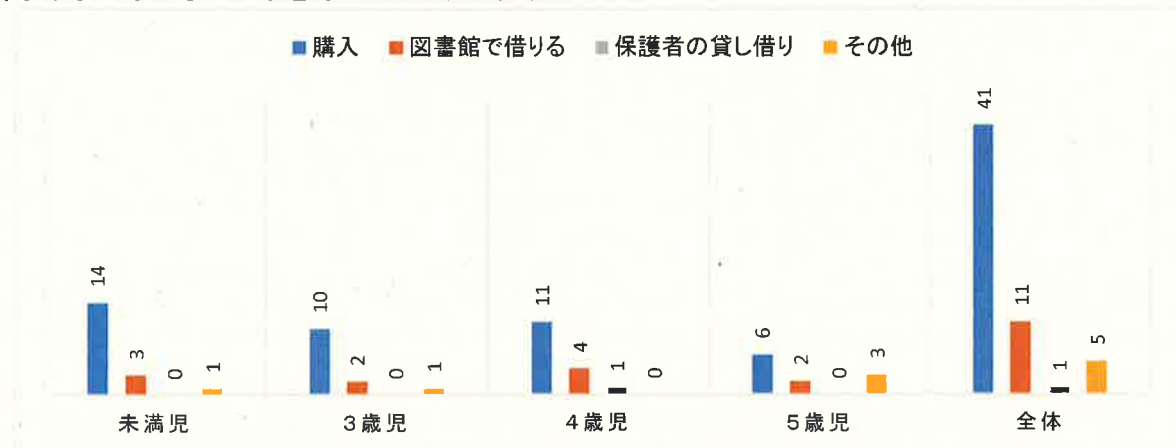
- 1週間で1日以上絵本を読んでいる家庭では、全てが読み聞かせは大切だと認識している

#### 質問4) 読んであげる本を選ぶ方法(複数回答)



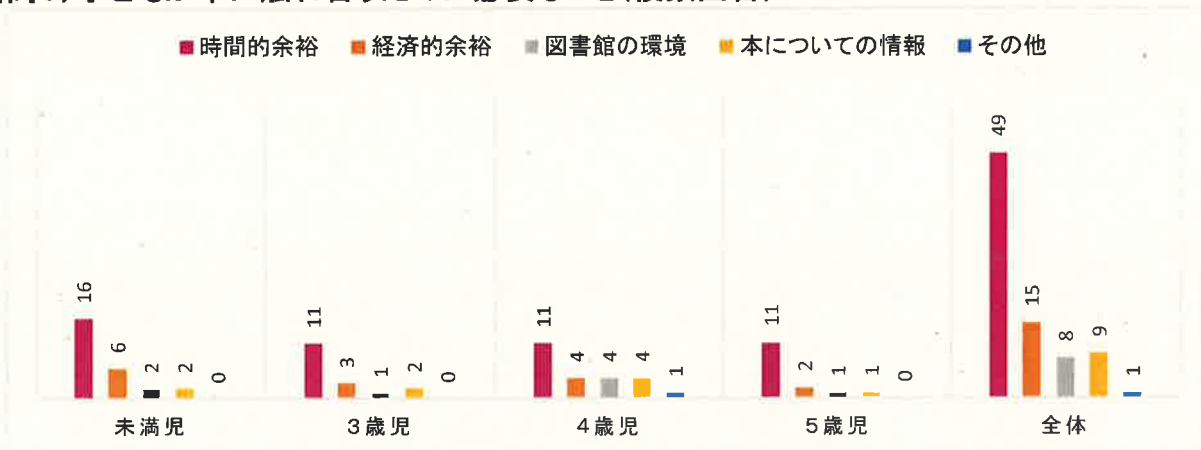
■本を選ぶ方法は、書店で選ぶ、子どもに選ばせる、保護者の興味に従う、図書館で探すなどが主たるものとなっている。

#### 質問5) 子どもに与える本をそろえる方法(複数回答)



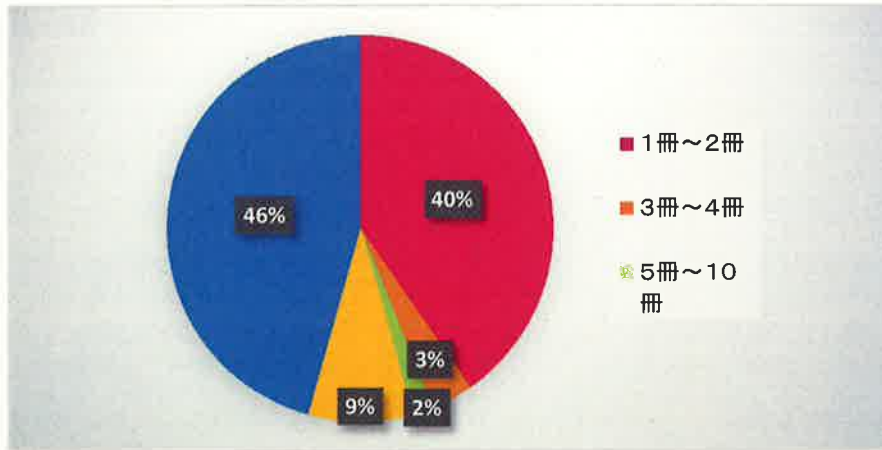
■一週間で1日以上絵本を読んでいる家庭のうち、大多数は絵本を購入している。  
 ■一方で、本を選ぶために利用していた図書館では、本をそろえるために活用はされない。

#### 質問6) 子どもが本に触れ合うために必要なこと(複数回答)



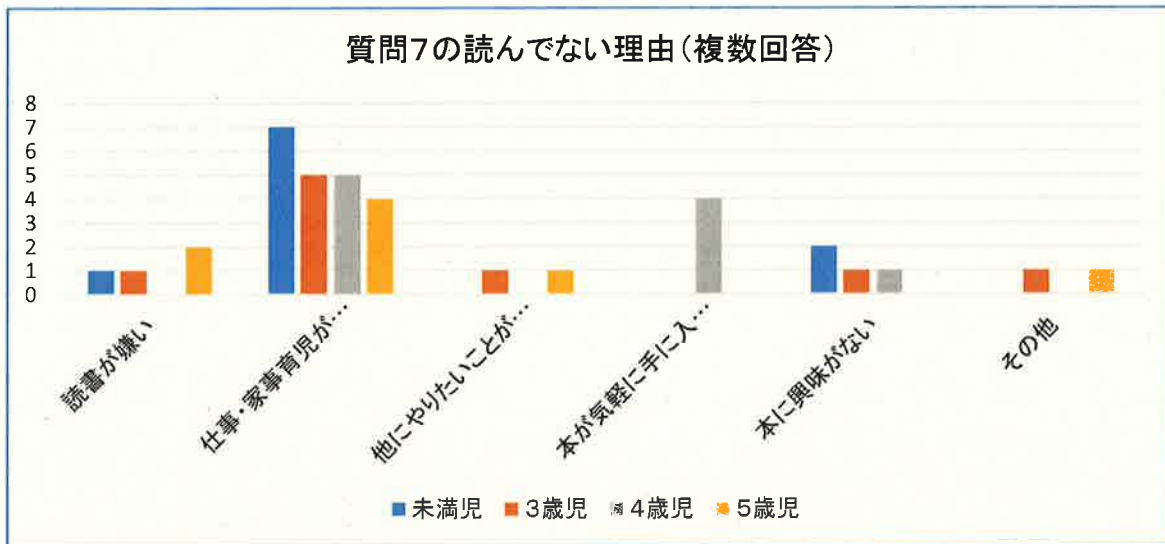
■85.9%が時間的余裕が必要だと回答しており、家庭での読書推進の課題である。  
 ■質問5により、絵本を購入している家庭が多く、経済的な余裕が必要であるとの回答も少ないことから、経済的な理由は家庭での読み聞かせに影響は少ない。

質問7)保護者自身の1か月の読書量



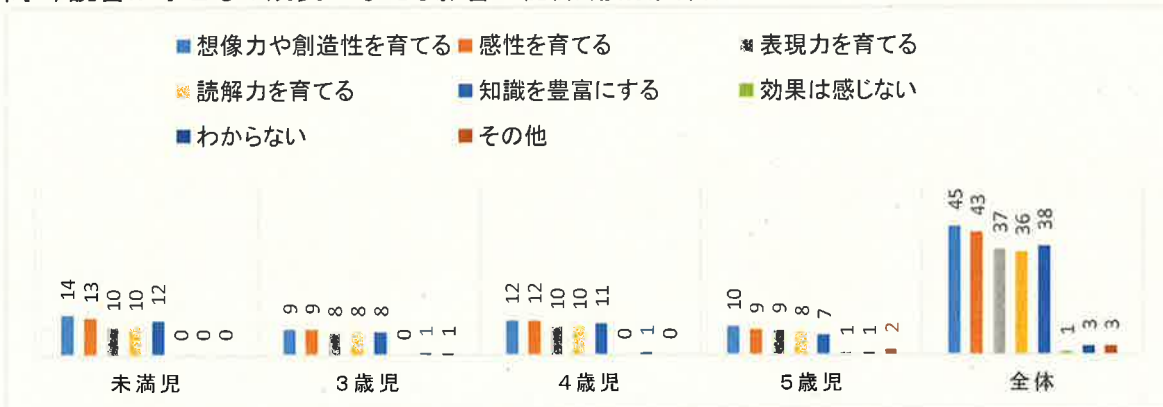
- 54.3%は週に1日以上、読書をしている一方、45.6%は読書をしていない。
- 4歳児保護者の中で、自ら本を読まない5名中4名が、子どもにも読んでいない。
- 5歳児保護者の中で、自ら本を読まない8名中6名が、子どもにも読んでいない。

質問8)質問7の読んでない理由(「読んでない」の回答者のみ)(複数回答)



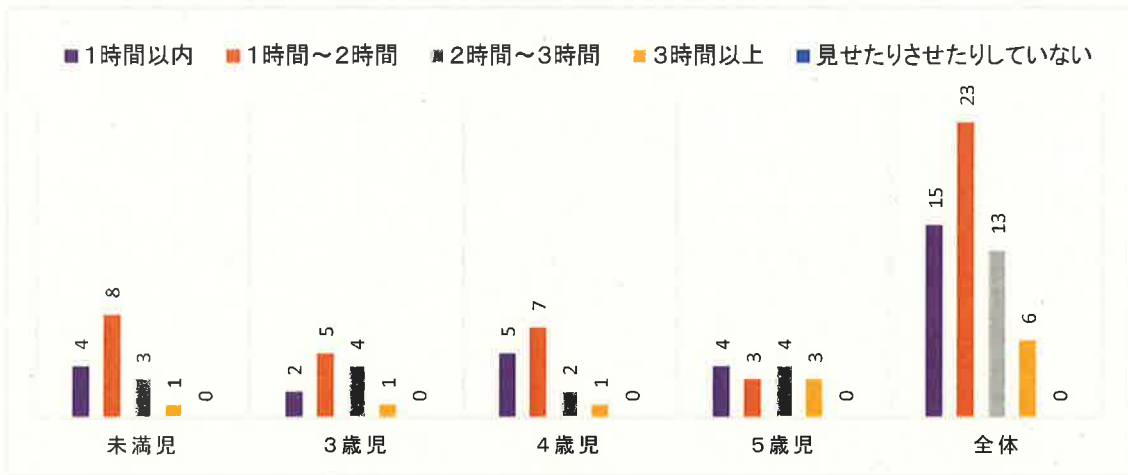
- この質問でも、仕事・家事育児の忙しさが主要因となっており、家庭での読書推進の課題である。

質問9)読書が子どもの成長に与える影響の認識(複数回答)



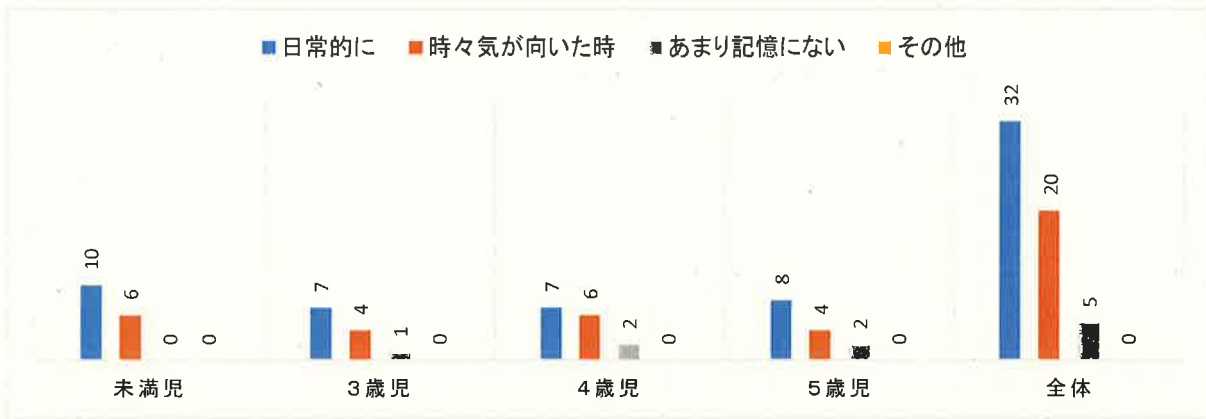
- 66.6%以上の保護者が、読書が何等かの好影響を与えることを認識している。
- 好影響を与えることを認識している保護者は1日以上読みきかせを行っている。

質問10) 1日あたりの子どものテレビ、ゲーム等の時間



- テレビを見せたりゲームをさせたりしていない家庭は0であった。
- 絵本を読んでいない家庭が最も多い5歳児は、2時間以上テレビやゲームを使っている家庭の割合が増えている。

質問11)



- 多くの保護者が本を読んでもらったり、読書を楽しんだことがある経験を持っているがこれらの経験と現在の子どもへの読み聞かせなどの行動や意識との相関関係は見られない。

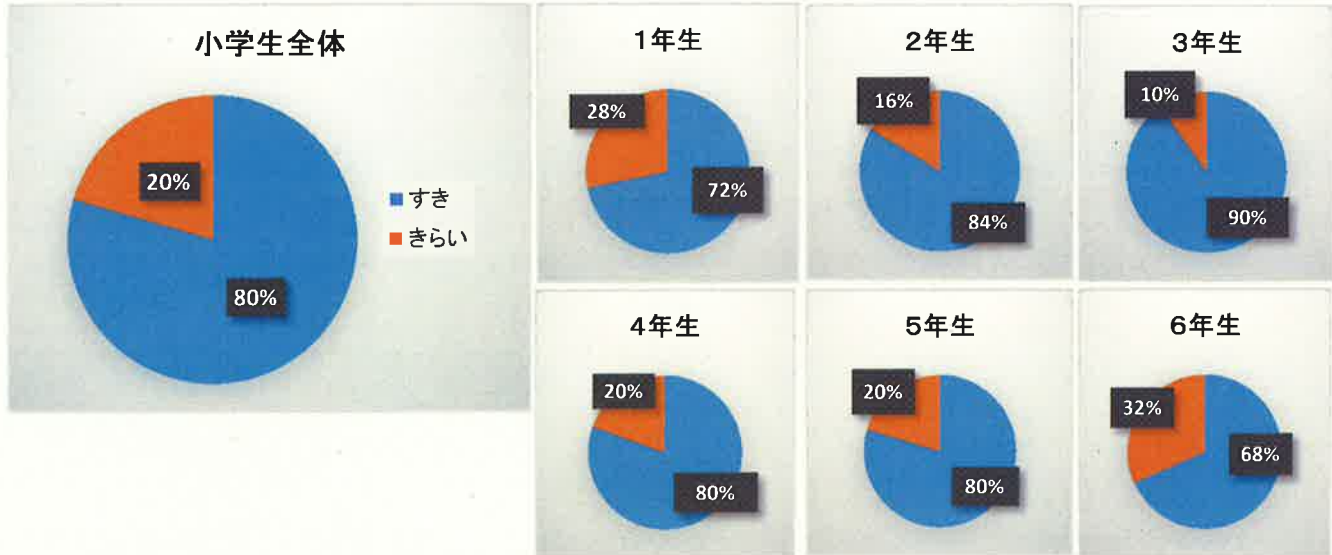
# 小学生読書アンケート分析結果

## 質問1及び質問2)回答者属性

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
男子	14	21	21	27	26	21	130
女子	18	22	20	14	28	17	119
合計	32	43	41	41	54	38	249
回収率(%)	96.9	100	95.3	100	94.7	97.4	98

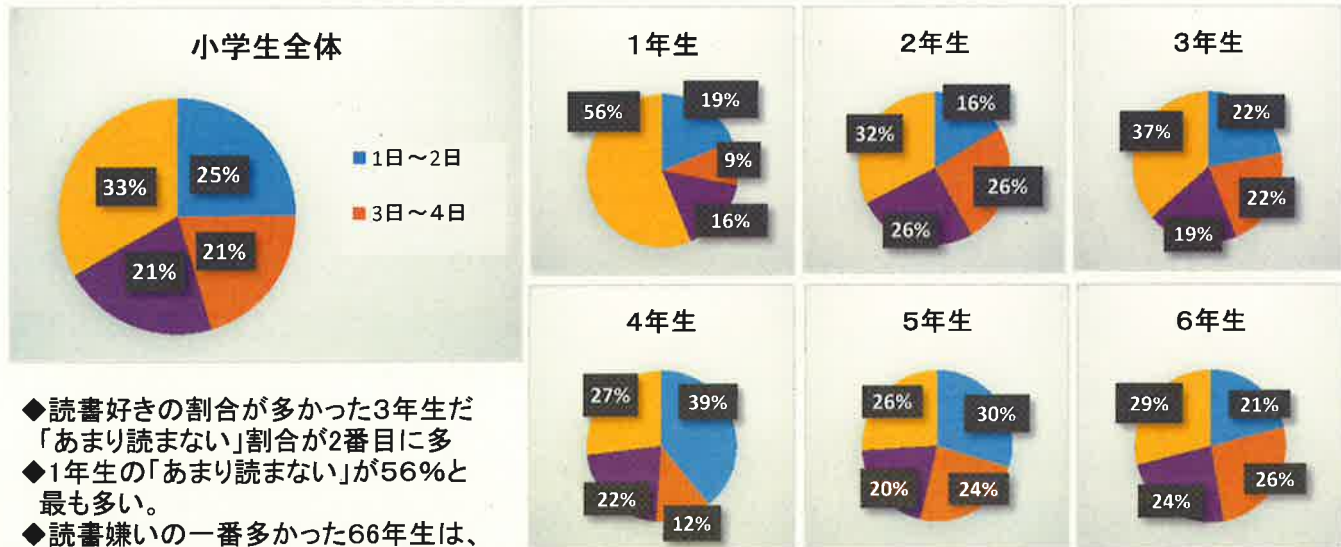
※以下、1%未満は0%標記

## 質問3)本の好き・きらい



- ◆3年生は読書好きの割合が多く、6年生は読書が嫌いな児童の割合が多い。
- ◆1年生～5年生を通して、80%以上の児童が読書好きである。

## 質問4)一週間の読書日数

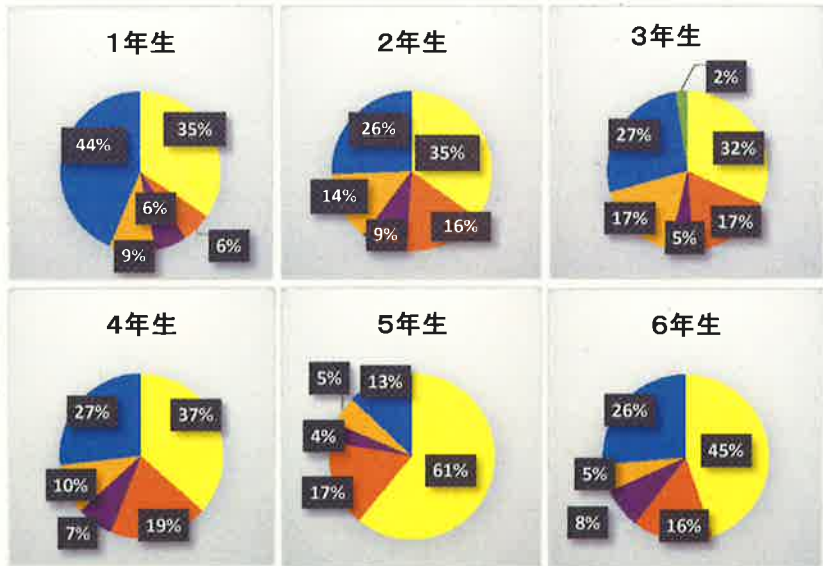


- ◆読書好きの割合が多かった3年生だ「あまり読まない」割合が2番目に多
- ◆1年生の「あまり読まない」が56%と最も多い。
- ◆読書嫌いの一番多かった6年生は、半数が1週間に3日以上読書をしている。
- ◆5年生は、1日以上読書する児童が最も多い
- ◆全体として、67%の児童が、1週間に1日以上読書をしている。

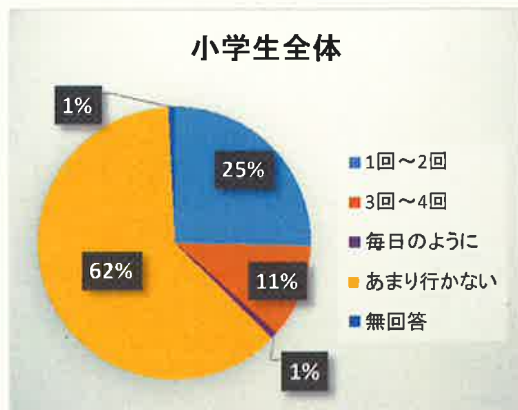
## 質問5) 長期休業中の読書量



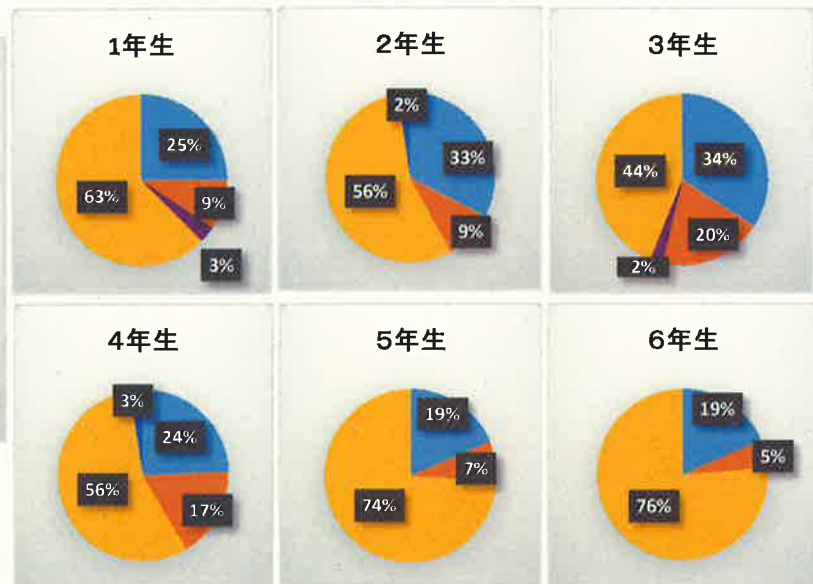
- ◆長期休業中、4分の1の児童が読書をしていない。
- ◆特に1年生は、40割以上の児童が読書をしていない。
- ◆5年生は、1冊～5冊が61%であり、平均的な冊数として1冊～5冊があげられる。
- ◆質問4及び質問5から、1年生の読書離れが顕著である。



## 質問6) 1週間の図書館利用日数



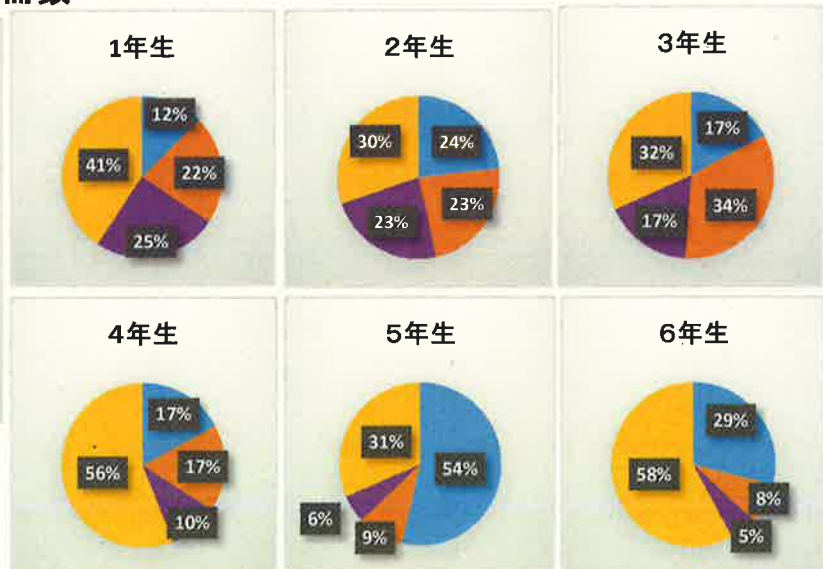
- ◆5・6年生は顕著に図書館を利用していない
- ◆読書好きの割合が1番多い3年生は、図書館を利用している児童の割合も多い
- ◆小学生全体として、60%以上の児童が1週間のうち図書館利用をしていない



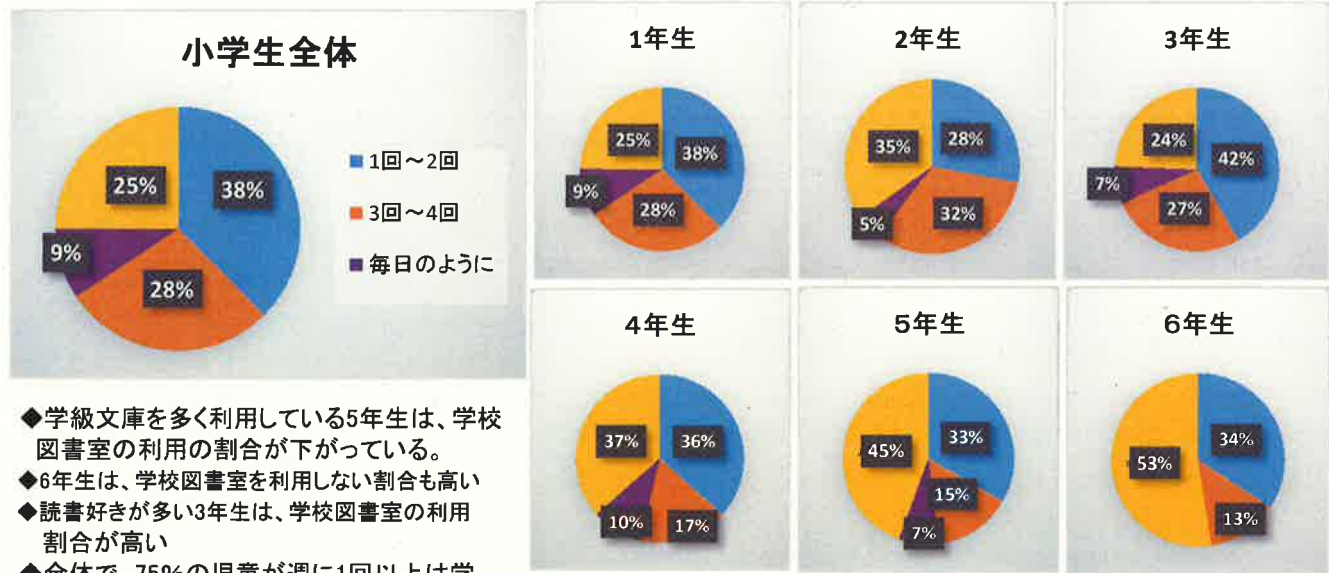
## 質問7) 学級文庫の1週間の読書冊数



- ◆6年生は図書館利用と合わせて学級文庫の利用も少ない
- ◆1日以上読書する割合が最も多い5年生は、学級文庫の利用する割合も多い
- ◆全体として4割の児童が利用していない

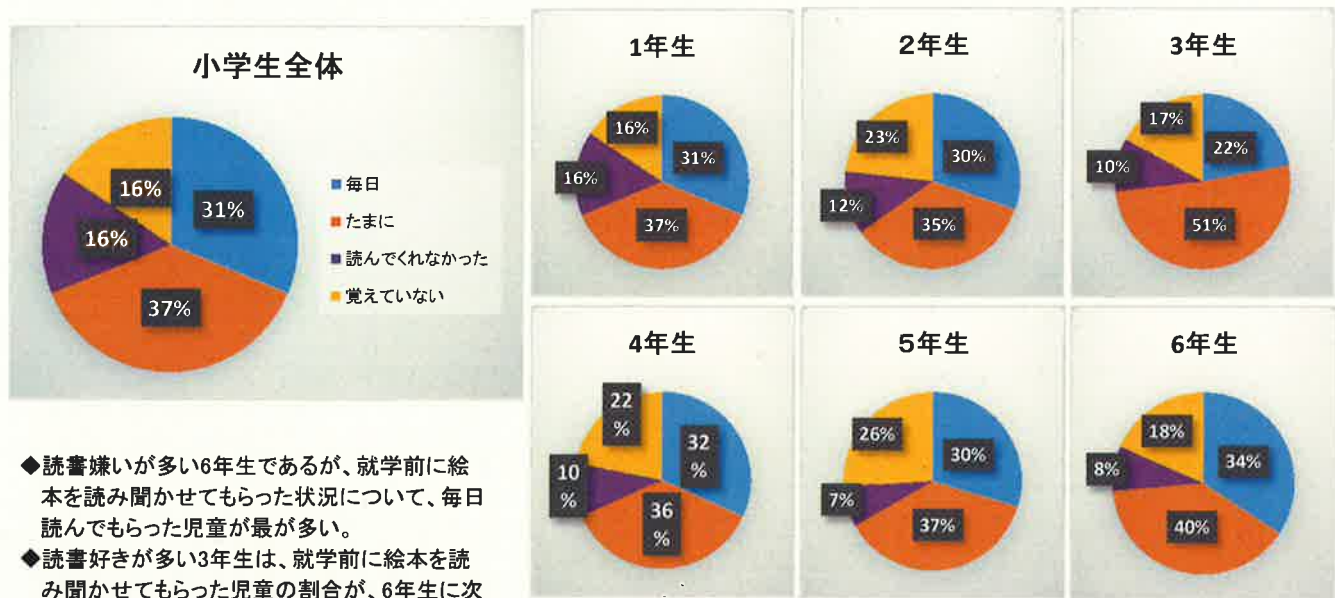


## 質問8) 1週間の学校図書室の利用日数



- ◆学級文庫を多く利用している5年生は、学校図書室の利用の割合が下がっている。
- ◆6年生は、学校図書室を利用しない割合も高い
- ◆読書好きが多い3年生は、学校図書室の利用割合が高い
- ◆全体で、75%の児童が週に1回以上は学校図書室を利用している。

## 質問9) 就学前の家庭での読み聞かせ状況



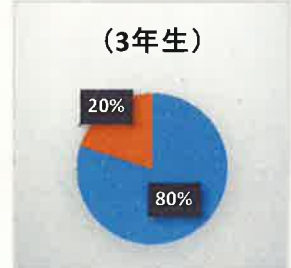
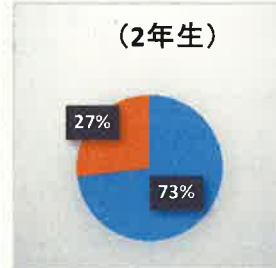
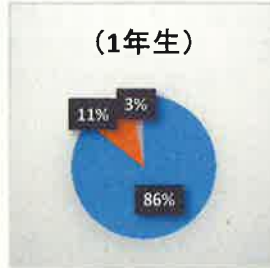
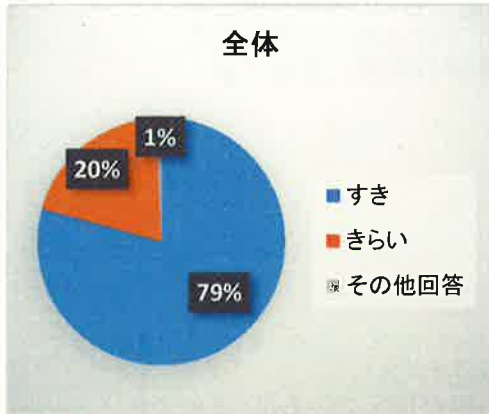
- ◆読書嫌が多い6年生であるが、就学前に絵本を読み聞かせてもらった状況について、毎日読んでもらった児童が最も多い。
- ◆読書好きが多い3年生は、就学前に絵本を読み聞かせてもらった児童の割合が、6年生に次いで多い。
- ◆全体として、今の読書好きと、就学前の読み聞かせ経験の相関関係は見えづらい

## 中学生読書アンケート分析結果

### 概要

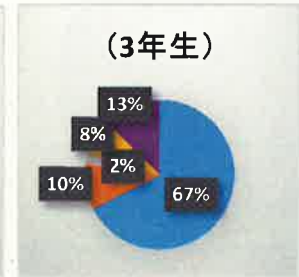
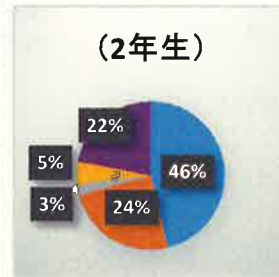
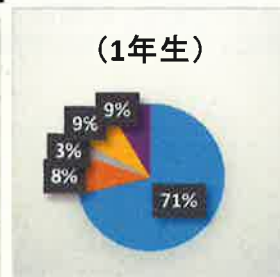
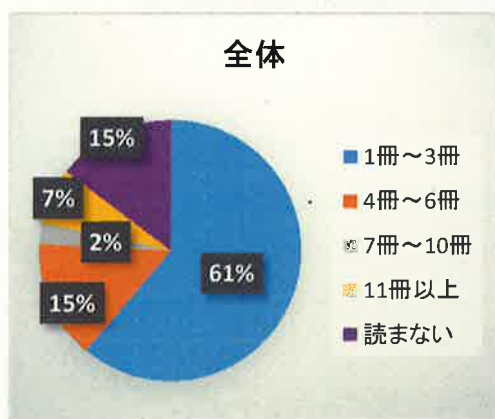
	1年生	2年生	3年生
回収数	35	41	32
回収率	100%	100%	84.20%

### 質問1)本を読むのが好きか



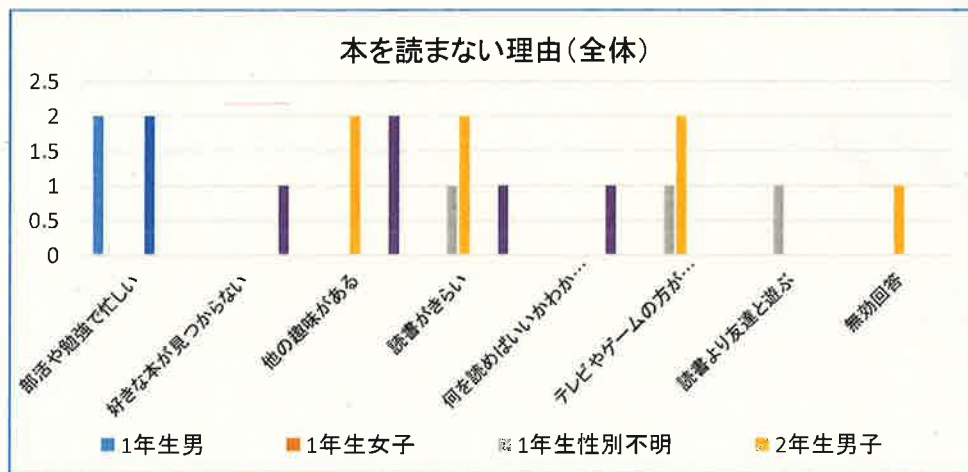
- ◆ 中学2年生が、嫌いの割合が若干多く、好きの割合が少ない。
- ◆ 全体としてとらえると、79%の生徒が読書好きと回答している。

### 質問2)1か月で読む本の量



- ◆ 質問1で27%が「本を読むのがきらい」と答えた2年生が、「読まない」割合が22%と高い
- ◆ 全体として、月に1冊～3冊読んでいる生徒の割合が最も高く、61%である。一方で、読まない生徒も15%いる。
- ◆ 週に1冊以上のペースとなる4冊以上の割合は、全体の24%である。

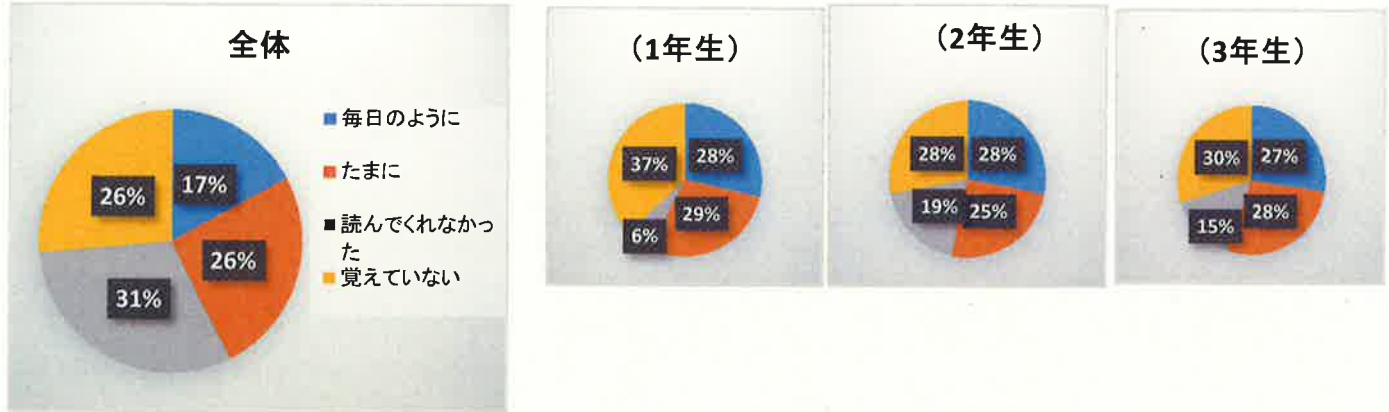
### 質問3)本を読まない理由(「読まない」回答者のみ)



- ◆ 特に読まない理由が偏っているわけではない。
- ◆ 本町の中学生は、特に一般的に言われるテレビやゲームが読書を阻害する唯一の主要因はない。



## 質問7) 就学前に家の方が絵本を読んできた記憶



◆読書がきらいな割合が多く、本を読まない割合が多い2年生は、就学前に絵本を読んでもった経験がない、あるいは覚えていない割合が他学年より多い。

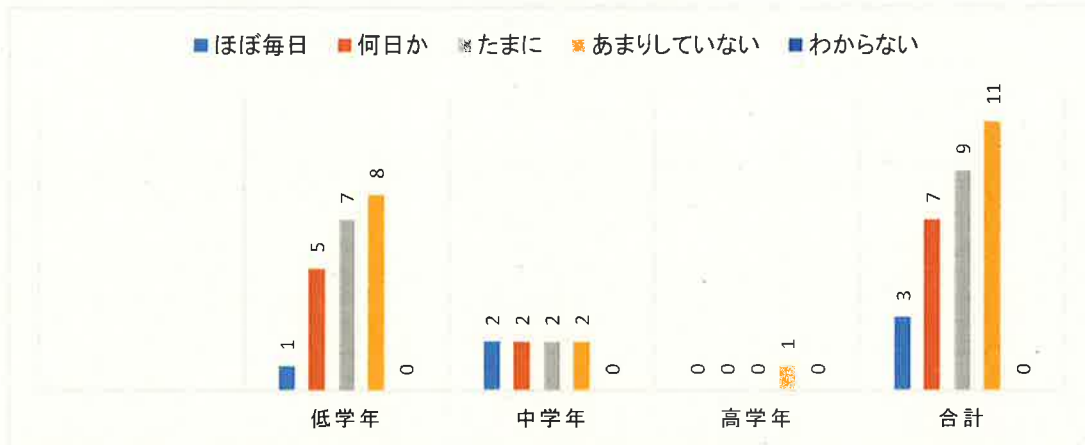
# 学童保育所保護者アンケート分析結果

## 調査対象者特性

(世帯数52)

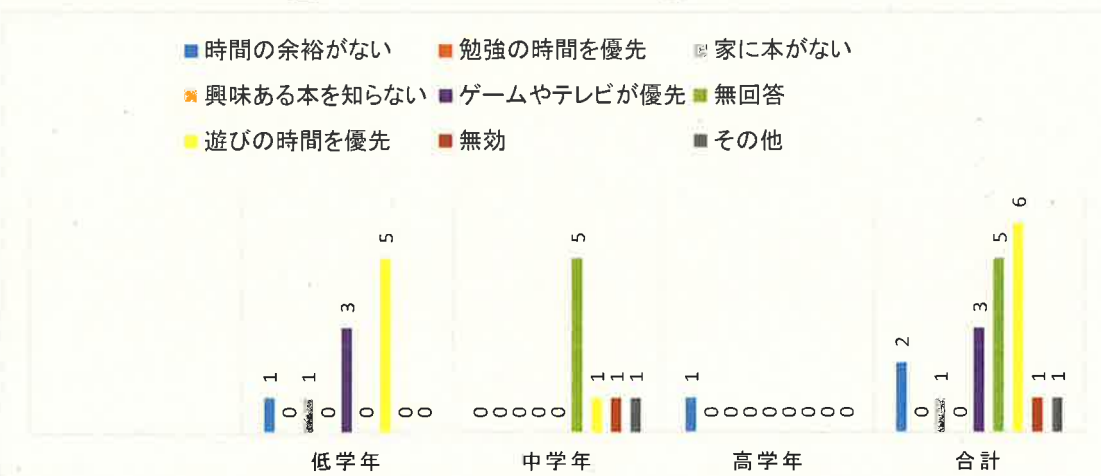
低学年	中学年	高学年	合計	回答率
21	8	1	30	57.6

## 質問1)1週間の家庭での子どもの自主的な読書日数



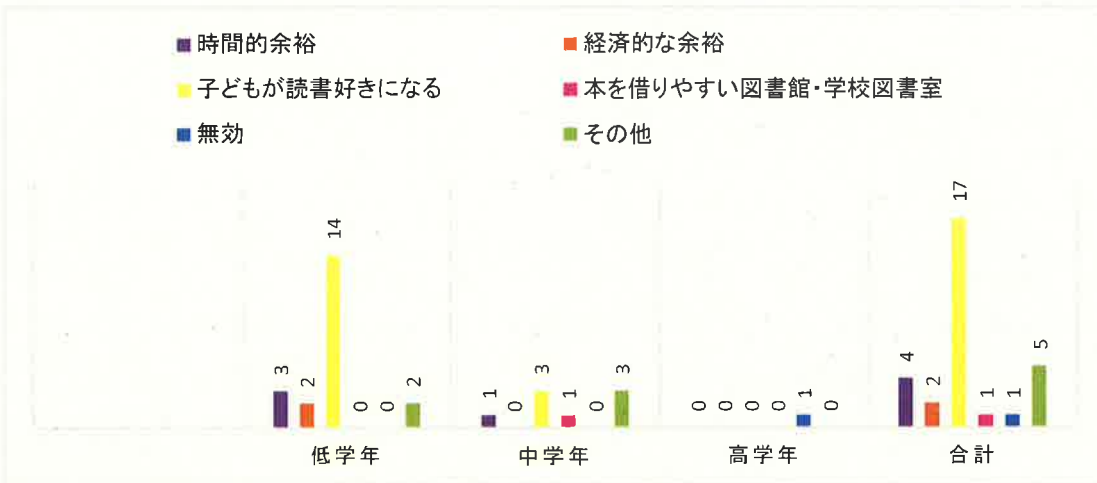
■低学年は特に、「たまにする」「あまりしない」の割合が多く、児童アンケートで1年生が家庭で読書をあまりしない結果が多かったものを裏付ける形となった

## 質問2)家庭であまり読書していない理由(あまり読書していない回答者のみ)



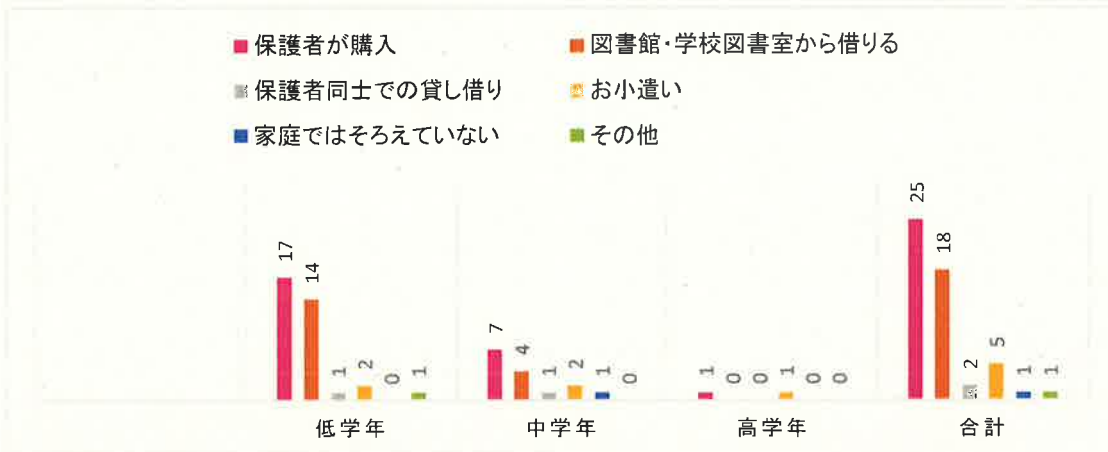
■低学年は、遊びの時間を優先している。読書の楽しさが普及していない表れではないか。  
 ■家庭での時間的余裕や経済的余裕の有無は、家庭での読書にあまり影響していない。

### 質問3)子どもが家庭で読書に親しむために必要なもの



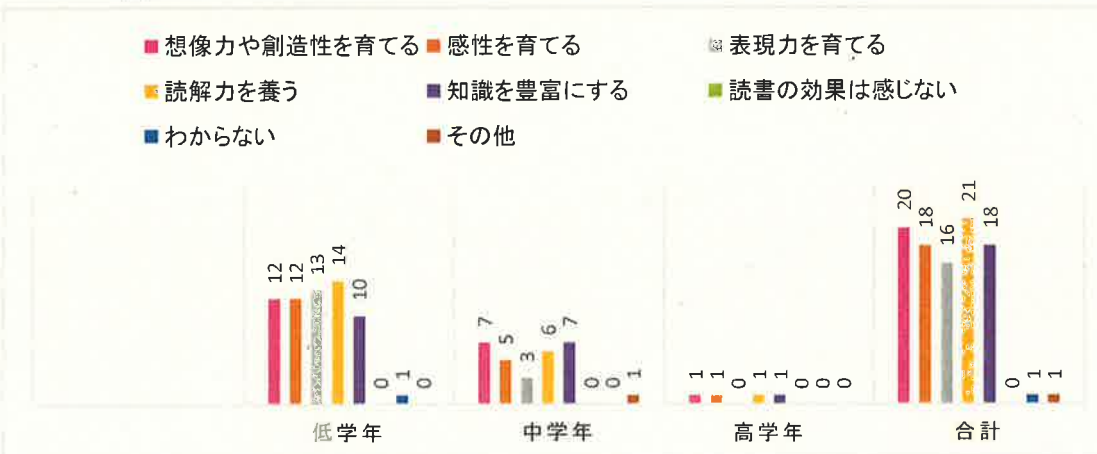
- 子どもが読書好きになることが一番の要件であると考えられている。
- 質問3と質問4から、子どもの読書の主たる阻害要件は、家庭の経済状況や時間的余裕は大きく影響しないと言える。

### 質問4)家庭での本のそろえ方



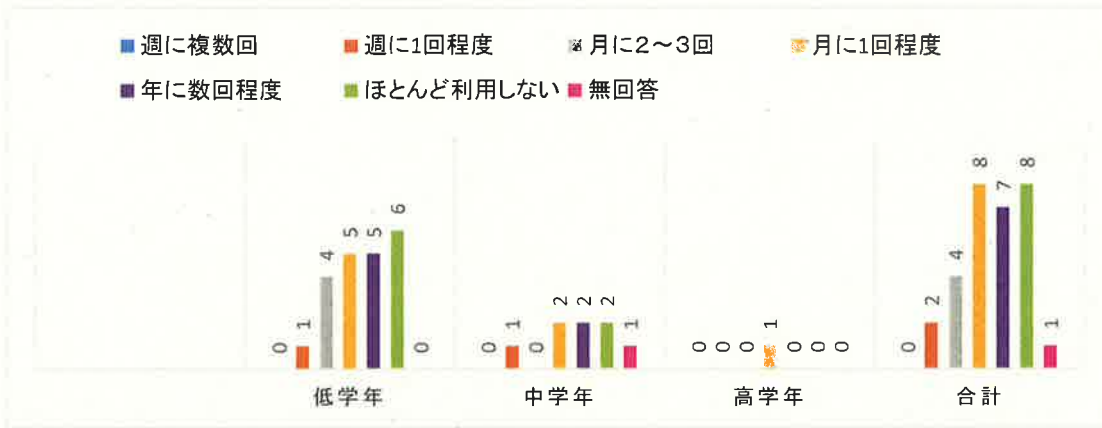
- 保護者が購入する家庭が一番多い。本が必要であれば、買い与える家庭が多いことは、質問2・質問3からも読み取れる。
- 家庭では必要な本を与えられる状況にあるのに、読書が習慣化されていないことになる。

### 質問5)読書の効果(複数回答)



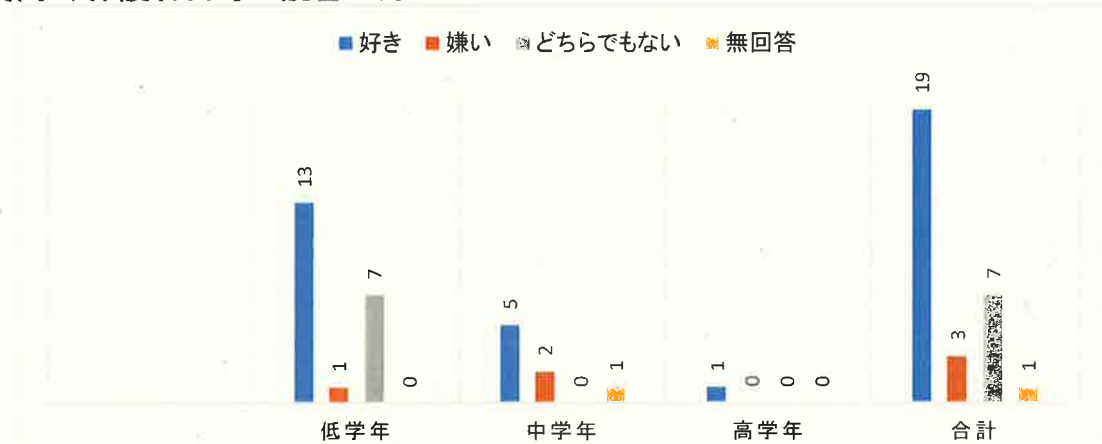
- 保護者は、子どもの読書の好影響を認識しており、子どもに必要な本は与えることもしていることから、子どもの読書が習慣化されていないのは、家庭環境以外にある。

### 質問6)親子での図書館利用回数



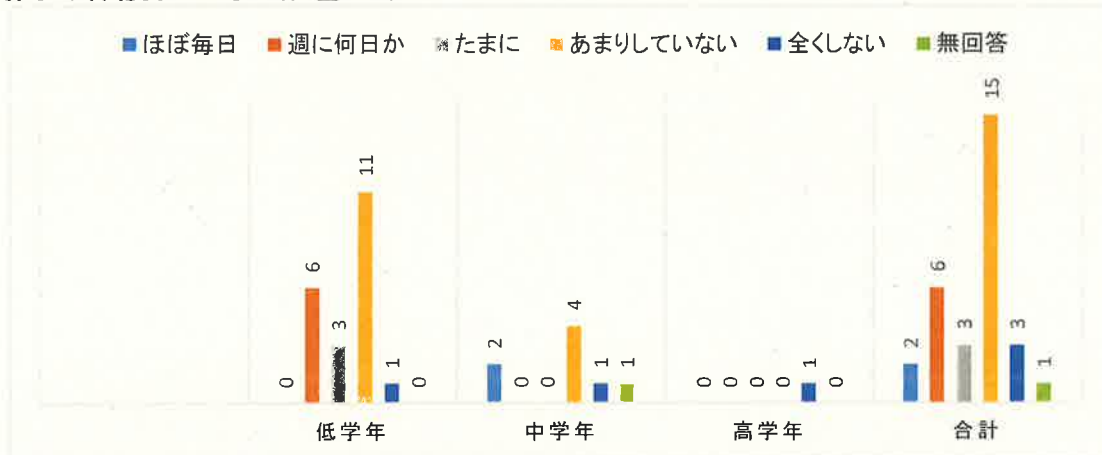
■多くの家庭は月に1回程度、年に数回程度、ほとんど利用しないのどれかであり、日常的には親子での図書館利用がなされていない。

### 質問7)保護者自身は読書が好きか



■多くの保護者が読書好きである。家庭で本を買い与えるという考えも、保護者の読書好きからきているものと推測される。

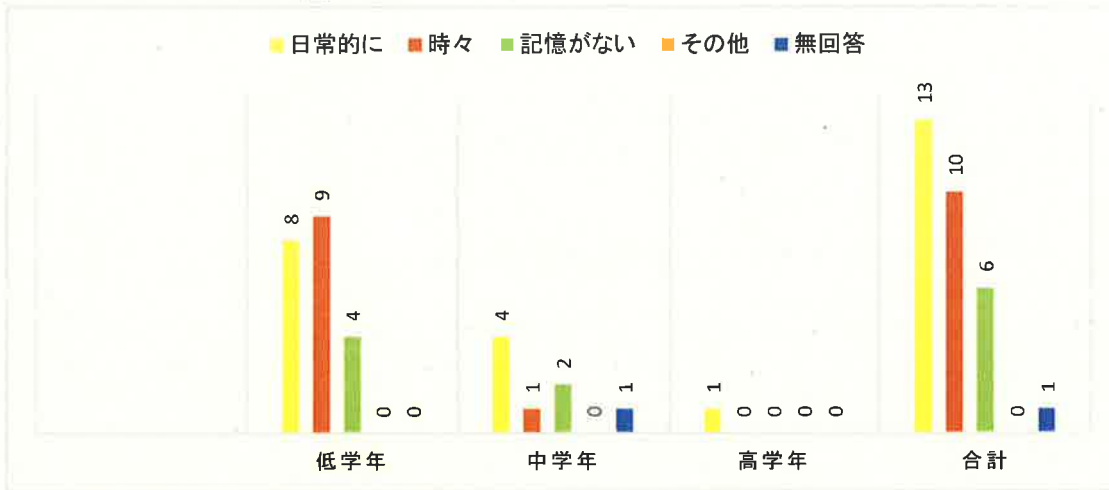
### 質問8)保護者自身の読書日数



■多くの保護者の読書好きという回答とは反比例し、多くの保護者が家庭で読書をしていない

■学童保育所の利用世帯であるという特性から推測すると、時間的な余裕がないことが推測される

### 質問9)保護者自身の読書日数



- 保護者の多くは、子どもの頃に読書に親しんだ経験をもっている。
- 特に、日常的に親しんでいた保護者が一番多く、この経験は現在の読書好きが多い質問7の結果から、子どものころに本と触れ合った経験を持つと、大人になってからも読書好きになるという裏付けになるのではないか。

## 図書館利用者アンケート結果 ※参考調査

### 質問1)対象者年代

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	合計
2	0	4	3	3	3	2	0	17

### 質問2)図書館利用の頻度

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
ほぼ毎日	2	0	0	0	0	0	0	2
2～3日に1回程度	0	0	2	0	0	0	1	3
週に1回程度	0	0	2	0	1	1	0	4
月に2～3回程度	0	0	0	3	2	1	0	6
月に1回程度	0	0	0	0	0	1	1	2
年に数回	0	0	0	0	0	0	0	0
年に1～2回	0	0	0	0	0	0	0	0

### 質問3)主な図書館利用日

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
平日	1	0	2	1	0	1	0
土曜日	0	0	0	2	2	0	0
日曜日	0	0	0	1	1	0	0
祝日	0	0	0	0	0	0	0
曜日に関係なく	1	0	2	1	2	2	2

### 質問4)主な図書館利用時間帯

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
10:00～12:00	0	0	3	0	2	0	0
12:00～13:00	0	0	2	0	0	0	0
13:00～16:00	1	0	2	1	0	2	0
16:00～18:00	0	0	0	1	0	0	1
仕事帰りに	0	0	0	0	0	0	0
時間帯に関係なく	1	0	0	1	1	1	1

### 質問5)図書館の利用目的(複数回答)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
本を借りる	2	0	4	3	3	3	1
本を読む	1	0	0	0	1	1	0
VHS・DVDを借りる	1	0	1	0	2	1	0

VHS・DVDを見る	0	0	1	0	0	0	0
調べものをする	0	0	1	1	2	0	0
雑誌や新聞を読む	0	0	3	0	1	1	1
時間をつぶす	1	0	0	1	0	0	0
読み聞かせに参加する	0	0	0	0	0	0	0
読書(本)に関する相談	0	0	0	0	0	0	0
子どもと一緒に読んだり借りたり	0	0	1	1	0	0	0
その他	0	0	1	0	0	0	0

質問6) 図書館事業を知る方法(複数回答)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
図書館のポスターやチラシ	0	0	4	1	3	1	1
町の広報誌	1	0	1	2	3	3	1
新聞折込のチラシ	0	0	0	0	0	0	0
ホームページ	0	0	0	0	0	0	0
知人からの口コミ	0	0	1	0	0	0	0
情報がない	1	0	0	0	0	0	0

質問7) 気軽に図書館を利用するために必要なこと

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
図書の種類を豊富にする	0	0	1	1	0	0	0
開館時間の延長	0	0	0	1	1	0	1
図書館のPR	0	0	0	0	0	1	0
楽しいイベントや事業	1	0	1	0	1	0	1
その他	1	0	1	0	0	1	0
無効	0	0	1	1	1	1	0